

職場における交通安全指導 Part.6

高速道路の安全な走行方法

高速道路は交差する道路も信号機もないため、最も快適に走行しやすい道路ですが、運転操作や判断を一歩間違えれば、そのスピードによる事故は重大事故に直結します。

特に、高速道路における追越しではヒヤッとした経験を多くのドライバーが持っています。そこで今回の職場における交通安全指導では、高速道路での安全な追越し方法および車間距離と停止距離の関係について取り上げてみました。

<安全な追越し方法>

車線を変え、加速したうえで再び進路をもどすという複雑な運転操作を必要とすることから運転中最も失敗が多く、重大事故を招くのが追越し運転です。従って次の条件を満たさない無理な追越しは絶対に避けるべきです。

(1)追越しの条件

前車(追越しをしようとする車)との速度差が10km/h以上ないときの追越しは控える。

前車が進路を変えることはないか、また前車の前方の状況もよく確認する。

前車に追いついてもいきなり追越すことなく、しばらく前車に追従し、前車の動向は勿論のこと、前車の前方に障害物等がないかを判断することが必要です。

一度に何台もの車を追越すことは危険です。

後続車で自分の車を追越そうとしている車はないかを確認する。

追越しに必要な距離が十分であるかを判断する。

前車の速度	自車の速度	追越しに必要な距離
70(km/h)	80(km/h)	640(m)
80	90	810
90	100	1,000

(2)追越しの手順

追越す車との車間をとって安全確認する。

方向指示器を出して助走を開始する。慌てて直ぐに右に出るのではなく、前車との速度差が十分ついてからゆっくりと右へ出る。その際、後続車で自分を追越そうとしている車がないかを必ず確認する。

追越し中の加速は相手との間隔に注意しながら制限速度内で行い、積極的に短時間で通過する。

追越しが完了したら方向指示器を出して、十分な車間距離をとってからゆっくりと左へ戻る。

<車間距離と停止距離>

トラック事故の中で最も多い追突事故の原因として、その多くが車間距離の不足にあります。

走行速度	空走距離 (ブレーキを踏んでから効き始めるまでの距離)	制動距離 (ブレーキが効き始めてから車が停止するまでの距離)	停止距離 (車の停止距離)
80(km/h)	22(m)	54(m)	76(m)
100	28	84	112

上の表は、乾いた舗装道路で運転者が危険を感じて急ブレーキを踏んでから、車が停止するまでの速度と停止距離を示したものです。例えば80km/hで走行の場合は、76mの停止距離を要しますので、それ以下の車間距離で追従走行していれば、物理的に追突は避けられないことになります。また、雨天の場合の停止距離はこの1.5倍以上、積雪や凍結路面の場合には3倍以上になります。

走行速度は勿論のこと、そのときの道路状況や積荷の状態等によっても停止距離は異なってきますので、高速道路の走行においては、余裕をもった車間距離の保持がいかに重要であるかがお解りいただけたと思います。

事業所内における安全会議や運転者の安全教育の場で是非ご活用ください。